

2025年度事業報告

1. 基本事業

(1) 資料収集保管事業

- ①人権問題に関する資料や文化財の収集を精査しつつおこなった。
- ②所蔵する人権資料の保管と整理に努めた。

(2) 調査研究事業

- ①人権問題を対象とした学芸員による調査研究を推進した。
- ②調査研究の成果は執筆活動などを通じて広く社会に還元した。

(3) 展示公開事業

①企画展 2025

趣 旨 当館既成のパネルを用いて、貴重な原資料を公開し、大阪公立大学への資料移管を直前にひかえて、資料の価値を寄付いただいた多くの個人・団体へ広く PR した。

テーマ 日本社会の差別と人権～リバティおおさかの 40 年

会 期 11 月 5 日（水）～9 日（日）10:00～17:00 ※最終日のみ、～12:00

会 場 大阪国際交流センター・1F ギャラリー

関 連 11 月 8 日（土） 14:00～15:00 学芸員による資料解説

来場者 99 人（うち、資料解説 21 人）

(4) 教育普及事業

①リバティセミナー2025

趣 旨 学芸員が部落史に関するテーマを選定し、連続セミナーを実施した。

テーマ あたらしい部落史Ⅱ

日 時 各月土曜日、14:00～16:00 ※後半は一部日程を変更

1)2025 年 4 月 26 日「学校教育と部落史」

2) 5 月 17 日「都市周縁と部落史」

3) 6 月 21 日「社会調査と部落史」

4) 10月18日「敗戦80周年と部落問題」

5) 11月15日「近代日本の部落問題」

6)2026 年 1 月 17 日「高松結婚差別裁判」

会 場 大阪市社会福祉研修・情報センター（ウェルおおさか）4 階会議室

参加者 のべ 212 人

②研修のための出張講演

趣 旨 部落問題について、豊富な資料を活用した学芸員の講演をおこなった。

テーマ 1)近世の身分制と差別

2)明治維新と「解放令」

3)近代日本と部落差別

4)全国水平社創立の思想

5)水平運動の展開

6)戦後の部落問題と解放運動

利用数 利用なし

③人権パネルの貸し出し

趣 旨 既存の人権パネル(6 テーマ)を貸し出し、人権啓発に努める。

- テーマ 1) 日本の歴史と差別問題 (3 テーマ)
2) 全国水平社の歩み
3) テーマでみる 日本社会と差別・人権
4) 関西とハンセン病

利用数 4 回

(5) 総括的事業

◇記念冊子『大阪人権博物館の 40 年』の編集

趣 旨 リバティおおさかが歩んできた 40 年 (1985～2025) の足跡をさまざまな角度からまとめ、その運営に寄与していただいた機関・団体・個人に広く配布し、大阪人権博物館の歴史的存在意義を総括する作業をおこなった。

体 裁 1,300 部、ページ数 184 頁、A4 版

※刊行日は、2026 年 6 月 30 日、配布は 7 月から予定

2. 広報活動

(1) 関係者への情報提供

◇郵送およびメーリングリストを用いて随時情報を提供した。

(2) ホームページの活用

◇展示公開、教育普及、DVD 販売、寄付金募集などに関する情報を周知した。

(3) マスコミへの情報提供

◇新聞社、記者個人に対する働きかけをおこなった。

3. 事業収入の拡大

(1) DVD の販売

◇既成の DVD を積極的に販売し、自主財源の確保に務めた。

- 1) 「ハンセン病問題を考える」
- 2) 「牛肉と私たちの暮らし」
- 3) シリーズ 1・部落の歴史を読み解く「全国水平社の歴史」
- 4) シリーズ 2・部落の歴史を読み解く「近世の身分制度と被差別民」
- 5) 部落史学習シリーズ「歴史編」「身分と生業編」「芸能と文化編」
- 6) 「映像で学ぶ部落差別解消推進法」

◇販売枚数 13 枚

(2) 教育普及事業の利用促進

◇関係団体の協力により、各種会合等での説明、チラシの配布などを通じて教育普及事業の利用を促進し、事業収入の拡大を図った。

4. 大阪公立大学への人権資料移管に向けた取り組み

(1) 資料目録の移管

◇2026 年 6 月初旬に大阪公立大学の新収蔵庫 (1 号館) に移管する準備を進めた。

(2) その他の作業

◇大学側と協議しつつ、財団の協力体制について確認しつつ進めた。

5. 役員会の開催

(1) 理事会

◇6 月 7 日 (土)、9 月 27 日 (土)、12 月 13 日 (土)、3 月 14 日 (土)

(2) 評議員会

◇6 月 27 日 (金)、12 月 13 日 (土)